

3章 ルシャ・テッパンベツ川流域鳥類調査

1. 鳥類相調査

1) 目的

調査地域周辺の鳥類相の把握（河口域）

2) 調査方法

調査地域とその周辺域における鳥類相を明らかにするため、ライントランセクト法（ラインセンサス法）による調査を行った。また、本調査と比較する意味で、知床周辺の鳥類相に関する既存資料の収集を行い、当地域の鳥類相に関する検討を行った。

ライントランセクト法は調査地域内に一定のコースを設定し、コース上をゆっくりと歩行しながら、出現した鳥類の種数・羽数・性別・幼成鳥の別を記録する方法である。ここで、センサス幅については、調査地に樹林帯が含まれることを考慮して、片側25m（コース両側では50m）を採用した。また、本調査では種リストの作成を主目的としたため、センサス範囲外であっても調査域内の種については補足データーとして記録するように努めた。センサスはボンベツ・ルシャ川間（海岸林道）、ルシャ川流域（河口）、テッパンベツ川流域（右岸林道）の3コースで実施した。なお、調査時間は原則的に午前5：00より午前10：00までの間に限定し、昼行性鳥類を主な対象として行った。

調査期日は1995年8月から11月である。調査は毎月1回のペースで合計4回行い、原則として1回の調査は2日間連続して実施した。今回の調査は地理的な要因が大きく関与してか、天候不順な日が多く繁殖や採餌行動などの生態観察を十分に行うことができなかった。調査日は以下の通りである。（種リスト調査）

	調 査 日	天 候	特 記 事 項
第一回	1995. 8. 8	曇り／晴れ	先に現地入りしていたカメラマンにシマフクロウとオジロワシの体羽を、ルシャ川の最上流堰にて拾得したとの報告を受ける。
	1995. 8. 9	曇り／晴れ	
第二回	1995. 9. 28	晴れ／雨	カラフトマスの遡上個体多数（ルシャ、テッパンベツ）
	1995. 9. 29	曇り／雨	
第三回	1995. 10. 19	曇り／雨	カラフトマス、シロザケの遡上が多数みられる。 ルシャ川河口付近にてヒグマの幼獣を観察。
	1995. 10. 20	曇り	
第四回	1995. 11. 21	曇り・強風	ボンシュンカリ河口付近にてヒグマの成獣を観察 シロザケの遡上多数。
	1995. 11. 23	曇り・小雪	

なお、10月18日と11月19日には、同様の調査地で出現個体数をカウントし、優占度の把握を試みた。（優占度調査）

3) 調査結果

3-1 種リスト調査結果

調査日に雨や雪、強風の日が多かったため日照時間や気温が鳥の行動に大きく影響し、出現率や優先度などに大きな影響が出ることが予測されたため、今回は鳥類リストの作成を主としたとりまとめを行った。

種リスト調査では、調査地域とその周辺で9目21科56種の鳥類の生息が確認された(表1)。このうち月毎の種数が最も多いのは8月の42種であったが、オオタカやクマタカなどといった留鳥と思われる種の裏付けがコンスタントに取れていないことから、実際の生息種数はそれ以上である可能性が高い。また、比較的出現種数が少ない9月から11月も、陸上の調査だけでは把握することが難しく冬季に渡来する種が多い海鳥類を中心に、実際の種数は調査結果よりも多いことが予想される。

生息が確認された鳥類を調査結果及び既存資料等により、渡り区分及び繁殖区分をを行うと(表2)のようになる。ただし、調査回数が少ないため判断しかねる種があることに留意する必要がある。

今回の調査において以下の特筆すべき成果を得た。

a) シラガホオジロ

シラガホオジロはシベリア中央部から千島列島までに繁殖し、中央アジアから中国に越冬する鳥で、日本にも旅鳥または冬鳥として渡来するが多くない。調査地での正確な記録はおそらく始めてである。

b) ツメナガホオジロ

ユーラシア大陸や北アメリカなど、北極圏のツンドラで繁殖し、大陸内部で越冬する鳥である冬鳥で、日本にはごくまれに渡来するにすぎない。道内では春国岱や尾岱沼などで観察されているが、調査地での正確な記録はなかった。

c) マドラウミスズメ(繁殖期の記録)

8月にテッパンベツ河口近くの海上で15羽の群れが観察された。冬鳥としては一般種であるが、繁殖期の観察例は多くない。繁殖は内陸部の樹上で、知床に近い藻琴山山麓で1961年に抱卵中の雌が捕獲された記録がある。以来正確な繁殖の記録はないが、知床半島で繁殖している可能性が示唆された。

d) オオワシ幼鳥(繁殖期の記録)

オオワシはアジア北東部に分布するわが国最大のワシタカで、国内希少野生動植物種や天然記念物に指定されている。カムチャッカ半島、オホーツク海北部沿岸、シャンタル諸島、樺太北部、ベーリング海沿岸などで繁殖し、ロシア南部沿岸地方、朝鮮半島、北日本などに冬鳥として渡来するが、とくに知床半島は多数個体が越冬することで有名である。

繁殖地の一つであるカムチャッカ半島では河川流域や沿岸部の大径木や崖に営巣し、4月上旬から5月に産卵、8月から9月に幼鳥が巣立つとされている。本来越冬地であるわが国で、繁殖期中(8月)にこの種を観察することは極めて珍しく、とくに全身幼羽(1才齢未満の羽衣)の状態であったことは国内での繁殖の可能性を示唆するものであり、今後更なる実態調査が必要であると思われる。

(表1) ルシャ・テッパンベツ川流域における月別鳥類リスト

		Aug	Sept	Oct	Nov
ウ科	Phalacrocoracidae				
ウミウ	Phalacrocorax filamentosus	○	○	○	○
ワシタカ科	Accipitridae				
トビ	Milvus migrans	○	○	○	○
オジロワシ	Haliaeetus albicilla	○	○	○	○
オオワシ	Haliaeetus pelagicus	○		○	○
オオタカ	Accipter gentilis		○	○	○
ノスリ	Buteo buteo	○	○	○	○
クマタカ	Spizaetus nipalensis		○		
ハヤブサ科	Falconidae				
ハヤブサ	Falco peregrinus	○	○		
ガンカモ科	Anatidae				
マガモ	Anas platyrhynchos	○	○	○	
コガモ	Anas crecca		○	○	
ヨシガモ	Anas falcata	○	○		
キンクロハジロ	Anas fuligula	○	○	○	○
クロガモ	Melanita nigra			○	○
シノリガモ	Histrionicus histrionicus	○	○	○	○
ホオジロガモ	Bucephala clangula		○	○	○
カワアイサ	Mergus merganser	○	○	○	○
シギ科	Scolophacidae				
キアシシギ	Tringa brevipes		○	○	
イソシギ	Tringa hypoleucos		○		
カモメ科	Laridae				
ユリカモメ	Larus ridibundus			○	○
ミツユビカモメ	Rissa tridactyla				
オオセグロカモメ	Larus schistisagus	○	○	○	○
シロカモメ	Larus hyperboreus		○		○
カモメ	Larus canus	○			
ウミネコ	Larus crassirostris	○	○		
アジサシ	Sterna hirundo	○			
ウミスズメ科	Alcidae				
マダラウミスズメ	Brachyramphus marmoratus	○			

ハト科 Columbidae					
キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	○	○		
アオバト	<i>Sphenurus sieboldii</i>		○	○	
フクロウ科 Strigidae					
シマフクロウ	<i>Ketupa blakistoni</i>	(○)			
フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	○	○		
アマツバメ科 Apodidae					
アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	○	○		
キツツキ科 Picidae					
ヤマゲラ	<i>Picus canus</i>	○			
クマゲラ	<i>Dryocopus martius</i>	(○)		○	○
アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	○	○	○	○
コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	○	○	○	
ツバメ科 Hirundinidae					
イワツバメ	<i>Delichon urbica</i>	○	○		
セキレイ科 Motacillidae					
キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	○			
ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	○			
ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	○	○		
モズ科 Laniidae					
モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	○	○		
カワガラス科 Cinclidae					
カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	○	○	○	○
ヒタキ科 Muscicapidae					
ノビタキ	<i>Saxicola torquata</i>	○			
トラツグミ	<i>Turdus dauma</i>	○			
ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>		○	○	
ウグイス	<i>Cettia diphone</i>				
シジュウカラ科 Paridae					
ハシブトガラ	<i>Parus palustris</i>	○	○	○	○
シジュウカラ	<i>Parus major</i>	○	○	○	○
ホオジロ科 Emberizidae					
シラガホオジロ	<i>Emberiza leucocephala</i>				○
ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	○	○	○	
ツメナガホオジロ	<i>Emberiza lapponicus</i>				○
アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	○	○	○	○

アトリ科 Fringillidae

カワラヒワ	Carduelis sinica	○	○	○	○
イカル	Eophona personata	○			

ハタオリドリ科 Ploceidae

ニューナイスズメ	Passer rutilans	○	○		
----------	-----------------	---	---	--	--

カラス科 Corvidae

カケス	Garrulus glandarius	○	○	○	○
ハシボソガラス	Corvus corone	○	○	○	○
ハシブトガラス	Corvus macrorhynchos	○		○	○

○ : 目視または声による確認

(○) : フィールドサインによる確認

(表2) ルシャ・テッパンベツ周辺域で確認された鳥類の渡り区分及び繁殖区分

		渡り区分	繁殖区分
ウ科	Phalacrocoracidae		
ウミウ	Phalacrocorax filamentosus	S	b
ワシタカ科	Accipitridae		
トビ	Milvus migrans	R	b
オジロワシ	Haliaeetus albicilla	R (W)	b
オオワシ	Haliaeetus pelagicus	W (R)	c (b)
オオタカ	Accipter gentilis	R	b
ノスリ	Buteo buteo	R	b
クマタカ	Spizaetus nipalensis	R	b
ハヤブサ科	Falconidae		
ハヤブサ	Falco peregrinus	R	b
ガンカモ科	Anatidae		
マガモ	Anas platyrhynchos	R	b
コガモ	Anas crecca	W (R)	c
ヨシガモ	Anas falcata	R (W)	b
キンクロハジロ	Anas fuligula	W	c
クロガモ	Melanita nigra	W	c
シノリガモ	Histrionicus histrionicus	W (R)	b
ホオジロガモ	Bucephala clangula	W	c
カワアイサ	Mergus merganser	W (R)	b
シギ科	Scolopacidae		
キアシシギ	Tringa brevipes	T	c
イソシギ	Tringa hypoleucos	S	c

カモメ科 Laridae				
ユリカモメ	<i>Larus ridibundus</i>	T		c
オオセグロカモメ	<i>Larus schistisagus</i>	R		b
シロカモメ	<i>Larus hyperboreus</i>	W		c
カモメ	<i>Larus canus</i>	W		c
ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>	R		c
アジサシ	<i>Sterna hirundo</i>	T		c
ウミスズメ科 Alcidae				
マダラウミスズメ	<i>Brachyramphus marmoratus</i>	W(R)		c(b)
ハト科 Columbidae				
キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	S		b
アオバト	<i>Sphenurus sieboldii</i>	S		b
フクロウ科 Strigidae				
シマフクロウ	<i>Ketupa blakistoni</i>	R		b
フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	R		b
アマツバメ科 Apodidae				
アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	S		b
キツツキ科 Picidae				
ヤマゲラ	<i>Picus canus</i>	R		b
クマゲラ	<i>Dryocopus martius</i>	R		b
アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	R		b
コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	R		b
ツバメ科 Hirundinidae				
イワツバメ	<i>Delichon urbica</i>	S		b
セキレイ科 Motacillidae				
キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	S		b
ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	R		b
ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	S		b
モズ科 Laniidae				
モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	S		b
カワガラス科 Cinclidae				
カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	R		b
ヒタキ科 Muscicapidae				
ノビタキ	<i>Saxicola torquata</i>	S		b
トラツグミ	<i>Turdus dauma</i>	S		c
ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	W		c
ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	S		b
シジュウカラ科 Paridae				
ハシブトガラ	<i>Parus palustris</i>	R		b
シジュウカラ	<i>Parus major</i>	R		b
ホオジロ科 Emberizidae				
シラガホオジロ	<i>Emberiza leucocephala</i>	W		c
ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	S		b
ツメナガホオジロ	<i>Emberiza lapponicus</i>	W		c
アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	S		b

アトリ科 Fringillidae

カワラヒワ Carduelis sinica S b

イカル Eophona personata S b

ハタオリドリ科 Ploceidae

ニューナイスズメ Passer rutilans S b

カラス科 Corvidae

カケス Garrulus glandarius R b

ハシボソガラス Corvus corone S b

ハシブトガラス Corvus macrorhynchos S b

渡り区分	R：留鳥 季節により多少の移動はするが一年中ほぼ同地域で生活する S：夏鳥 春に南の地域から渡来し、繁殖をする鳥 W：冬鳥 北の地域で繁殖し、秋になると渡来して越冬する鳥 T：旅鳥 ある地域よりも北と南を移動するために、主に春と秋に通過する時にだけ見られる鳥
繁殖区分	a：繁殖を確認した b：繁殖は確認していないが、繁殖期の幼鳥確認などによりその地域周辺で繁殖していることが予想される c：その地域周辺で繁殖をしていないと思われる